

国産針葉樹活用プロジェクト21連続オンライン実践セミナー

2021年12月15日水曜日18:00~20:00 15分前から入場できます。

参加費無料

申込先・h.maruya@me.com

森の響き 心の共鳴 命が宿る杉の空間



木はまったく可哀相な扱いを受けている。人は自分より長い時間を生きて成長を続けてきた木を切り倒し、自分の都合で粗末に扱う。素材に畏敬の念を払い、手をかけて物を作るということをしなくなって、物作りの精神や姿勢がずいぶん変わってしまった。素材に対する思いの欠如した物づくりなど本来ありようがないのに。

家に使われる木のことを考えてみよう。伝統的な工法に見習い、木を表に出して構造即意匠のデザインを長く続けてきた筆者の

周りの職人すら、その思いの欠如が見受けられる事がずっと気になっていた。職人の物づくりの姿勢をもう一度昔のそれに戻すことの意義は、労働の本質的意味を問い直すことでもある。

講師 **落合 俊也**

一級建築士、(株)森林・環境建築研究所 代表取締役

2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発目標 SDGs」に掲げられている複数の目標達成に向け、新たな木材需要の創出が求められた。国内では2020年10月に「2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」ことが宣言され、12月には「2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略」を策定、二酸化炭素吸収・固定の観点からも木材利用の拡大の必要性が指摘された。国産木材の需要拡大は、森林資源の循環利用を通じた二酸化炭素吸収及び固定機能の維持・向上、鉄やコンクリート、化石燃料の代替機能の使用削減に繋がり、地球温暖化防止に貢献するものである。私たち建築人が先頭を切って国産針葉樹を利活用することが求められている。

**国産針葉樹活用
project21
on-line連続講座
by artisan日本**

■主催団体

一般社団法人 **artisan日本**

一般社団法人 **エコハウス研究会**

■後援団体

一般社団法人 **東京建築士会**

NPO 法人 **設計協同フォーラム**

(多摩産材木材を活用するグリーン化事業グループ)

1959年、東京都国立市生まれ。高校卒業後、建築家吉阪隆正にあこがれて早稲田大学 理工学部 建築学科へ入学。1981年、大学を1年休学しワーキングホリデー第一期生として渡豪、若き日々をオーストラリアで過ごした。「木」の包容力と可能性に魅せられ、神山幸弘先生のもと「伝統木構造」を学んだ。卒業論文は「貫の構法的変遷に関する研究」、修士論文は「木造住宅の地方性に関する研究」である。卒業後は迷わず木造建築の第一人者であった杉坂智男氏に師事。他に、黒川哲郎先生、小玉祐一郎先生、岩村和夫先生からも多大な影響を受けた。また、現代住宅に必要とされなくなっていた伝統工法を、熱的性能革命を持って進化発展させるアイデアは南雄三先生の影響によるところが大きい。

エコロジーコンシャスな住宅、パッシブ設計を追求し「月的寓居」シリーズを発表。住人が「夜」を感じて安息できる家を目指して「ムーンハウジング」「月的寓居」と名づけた。

2014年春、杉坂建築事務所より独立し、株式会社 森林・環境建築研究所を創設。INFOM国際森林医学会理事として森林の持つ医学的効果に関する研究も行なっている。